

Global Energy Policy Research

GEPR (グローバルエネルギー・ポリシーリサーチ) は、日本と世界のエネルギー政策を深く公平に研究し、社会に提言するウェブ上の「仮想シンクタンク」です。この機関は、アゴラ研究所 (<http://agorajp.com/>、東京) が運営し、エネルギー問題についての研究と調査、インターネットでの情報提供、シンポジウムの開催、提言の作成、書籍の出版を行います。

今週のアップデート スマートグリッドをどのように日本で普及させるべきか (2012年4月2日)

GEPR編集部・Monday, April 2nd, 2012

今週のコラム

1) スマートグリッドと呼ばれる、情報通信技術と結びついた新しい発送電網の構想が注目されています。東日本大震災と、それに伴う電力不足の中で、需要に応じた送電を、このシステムによって実施しようとしているのです。

エネルギーリサーチャーで、インターテック社代表の新谷隆之氏に「一般家庭への拙速なスマートメーター導入への疑問 日本に置けるスマートグリッドの現状」という解説コラムを寄稿いただきました。

現状を概観した上で、普及のためにはもう少しデータの集積・調査が必要ではないかという提言を行っています。

2) 日本では東日本大震災の後のがれきの処理が進んでいません。その理由の一つは、がれきに放射能に汚染されているというデマです。GEPR編集部は「進まないがれき処理、被災地では片付け進む - 現地レポート」を提供します。岩手県陸前高田市、宮城県石巻市のがれきの状況を、写真で紹介しします。

3) GEPRはNPO国際環境経済研究所 (IEEI) と提携し、今後はコンテンツの共用をしていきます。同研究所の所長である澤昭裕氏が執筆した「曲解だらけの電源コスト図made byコスト等検証委員会」を掲載します。

政府の国家戦略室が昨年秋に公開した電源コスト図は自然エネルギーに対して甘い判断がくだされ、原発について厳しい評価に傾いていると批判を集めています。それを、このコラムは分析しています。

今週のリンク

1) 環境省のがれき問題についてのPR記事です。「環境省が推進するがれき広域処理の意味 前編：大量のがれき

」ジャーナリストの津田大介さんが執筆し、さまざまな意見に目配りがされています。

2) アゴラ研究所の池田信夫所長がニュースウィークにコラムを寄稿しています。「[「賢い省エネ」が新しい産業を生み出す](#)」

スマートグリッド問題の現状を分析したものです。

3) 米国FERC（連邦規制委員会）がまとめた2010年のディマンド・レスポンス（スマートグリッドを使った電力の需給調整）の評価報告書（英語）「[2010 Assessment of Demand Response and Advanced Metering Staff Report](#)」

電力会社から需要家の家電機器を直接遠隔操作する「直接負荷制御」という取り組みがピーク需要削減に効果があると指摘しています。

This entry was posted on Monday, April 2nd, 2012 at 3:00 pm and is filed under [アップデート](#), [コラム](#)

You can follow any responses to this entry through the [Comments \(RSS\)](#) feed. Responses are currently closed, but you can [trackback](#) from your own site.